



平成24年5月16日

各 位

会 社 名 森下仁丹株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 駒村 純一
(コード番号4524 東証、大証各第2部)
問 合 せ 先 取締役常務執行役員 武貞 文隆
電 話 番 号 06-6761-1131(代表)

アンジェス MGとの経口ワクチン共同研究開発取組みに関するお知らせ
～シームレスカプセル技術を応用した医薬品開発プロジェクト～

森下仁丹株式会社（本社：大阪市中央区／代表取締役社長：駒村純一）は、アンジェス MG株式会社（本社：大阪府茨木市／代表取締役社長：山田英）と株式会社ジェノラック B L（本社：沖縄県那覇市／代表取締役社長：瀬脇智満）および東京大学産科婦人科学の川名敬講師（同大学病院女性外科病棟医長）との子宮頸がん治療ワクチン開発プロジェクトに参画し、子宮頸がんの前がん病変に対する経口ワクチンの研究開発に着手しましたのでお知らせします。

子宮頸がんの原因ウイルスであるヒトパピローマウイルス（HPV）は、前がん病変の初期段階から検出され、その後、子宮頸部上皮内腫瘍性病変と進むにつれ HPV のがん関連蛋白質の発現が増加し、子宮頸がんへと進展します。

アンジェス MGが開発する乳酸菌を利用した治療ワクチンは、HPV の発がん蛋白質に対する特異的な細胞性免疫を子宮頸部へ効率的に誘導することで、子宮頸がんへの移行を回避できる画期的な世界初の治療ワクチンとして期待されています。

子宮頸がんので子宮頸部円錐切除術を行った患者は、その後の早産、低出生体重、帝王切開のリスクが高まることが報告されており、子宮頸部円錐切除術を回避できる意義は大きいことから、他に前がん病変に対する治療法がない現実に鑑み、本治療ワクチンの早期実現が期待されます。

本開発は経口投与したワクチンが胃酸の影響を受けないよう、当社の腸溶性シームレスカプセルに包み、効果的なDDSを目指すもので、実用化すればカプセル経口ワクチンとしては初めての医薬品となります。この腸溶性シームレスカプセル技術は既に当社が神戸大学医学部の白川利朗准教授らのグループと推進中の経口感染症ワクチン開発プロジェクトや、アンジェス MGが開発するNF- κ Bデコイオリゴを用いた潰瘍性大腸炎治療の核酸医薬プロジェクトでも応用研究されており、今後は腸溶性シームレスカプセル技術を共通の基盤技術とした共同プロジェクトや経口ワクチンの研究会設立も視野に入れ、より付加価値の高い医薬品製剤の共同開発を推進し、早期実用化を目指して参ります。

新規の医薬品として将来の業績への貢献が期待されますが、本年度の業績に与える影響は軽微であり、公表値に変更はありません。

以 上